H20健全で豊かな森林づくりプロジェクト フォローアップ委員会 フォローアップシート

◆達成度に関するアドバイス

・明示された生産性を見る限りでは当初計画以上の実績を達成していますが、根拠となる積算内訳が不明瞭であることから、コストを明確に把握して今後の生産性向上を図るため、積算根拠の整理(該当する作業工程の範囲等確定)を徹底して下さい。

◆成果に関するアドバイス

- ・採算性の向上に囚われ過ぎることなく、長期的な視点に立った健全な森林づくりに留意(伐開幅の縮減、 残存木への損傷軽減等々)することが必要と考えます。
- ・道づくりに関しては、作業道から接続道路への土砂流出防止対策が必要と認められたため、今後は事業着手前の段階で、線形配置及び縦断勾配による対応や、適切な路面排水処理、丸太組工法による盛土法尻での土砂崩落防止等、環境に配慮した施工方法を十分に検討するとともに、可能な限り実践して下さい。
- ・盛土施工時には、地山を段切り締め固めすることにより、盛土量(切土量)の削減、並びに安定路盤の確保に努めて下さい。
- ・道際の立木は、道上法肩では切取法面の崩壊を防止し、道下盛土では路体の保持と転落防止用ガード レールの役割が期待されるため、過度な伐採防止について留意して下さい。
- ・間伐とは、林内の光をコントロールすることで将来残す優勢木の成長を促す行為であることを再認識し、 前例に拘らず将来に向けた森林づくりにとって最適な施業方法を熟考するとともに、可能な限り試行して 下さい。

◆効率性に関するアドバイス

- ・現在の作業システム(架線系中心)だけでなく、将来の作業システム(架線系と路網系の組み合わせ)にも対応可能な道づくりとするため、両者のバランスが取れた郡上地域における道づくりのコンセプト(配置、規格、路網密度等)を明確にして下さい。
- ・目標とする森林の姿を実現する観点から、列状間伐(選木含む)が必要と考える理由を明確にして下さい。

◆妥当性に関するアドバイス

・該当無し(特段の言及無し)

◆発展性に関するアドバイス

- ・道づくりの支障木材積によって賄われる潤沢な利益の還元が、結果的に施業地の集約化を促進し木材生産コストを低減させていることは理解しますが、一方で広い伐開幅を伴う道づくりは健全で豊かな森林づくりの理念とは一線を画すとともに、森林所有者の満足度低下を招きかねず、口コミによる低評価の伝播等が懸念されますので、施業実施に当たっては、その内容を森林所有者に対して十分に説明して下さい。
- 事業採算性や利益還元とのバランスを図りつつ、可能な限り伐開幅を縮減するとともに、道路脇の優勢木を 最終成立木として保残するほか、残存木への損傷を軽減する施業実施等に向け、現地農林事務所との連 携により早期に実践して下さい。

◆総括に関するアドバイス

- ・長伐期施業を指向する中での採算性を重視した大胆な道づくりの継続は、未だ道づくりに対する抵抗感が根強い地域社会においては、事業量確保を益々困難にしてしまうことが懸念されますので、今後は今まで以上に環境への負荷を低減した道づくりに心がけて下さい。
- ・目標とする森林の姿を一層明確にして、その実現に必要な施業方法を柔軟かつ積極的に取り入れることにより、健全さと豊かさを両立する森林づくりの実現に期待します。

◆フォローアップ委員会の開催状況

平成20年12月26日

日 時: 平成20年11月27日(木)

場 所: 郡上市明宝地内

参加委員: 三島 喜八郎 (社)岐阜県森林組合連合会 代表理事副会長

湯浅 勲 日吉町森林組合 理事兼参事

篠田 成郎 岐阜大学総合情報メディアセンター 教授

対 象: 郡上森プロ(郡上森林組合)



プロジェクトの概要説明



施業後の林分



列状間伐の実施状況



「広い伐開幅の改善」について アドバイス



「目標とする林型と間伐の位置づけ」 についてアドバイス



「既存道と作業道の接続方 法」についてアドバイス

三島 喜八郎



「切取法高と法肩の立木保存」 についてアドバイス



「作業システムと合致した道づくり の必要性」についてアドバイス

H20健全で豊かな森林づくりプロジェクト フォローアップ委員会

委員長